



白石 勝士 議員



録画映像

**質問1** 昨年12月に実施された北海道総合防災訓練の成果は、備蓄資機材の有効活用、衛生面の充実などを再確認できた

**問**

我が北斗市は比較的自然災害の少ないまちであると思いますが、昨年11月の大雨のように災害と無縁ではありません。また、平野、海岸、中山間地と異なる対応が求められる地域を抱え、地勢の一部は隣接した市町と共有しているため災害が広域化する可能性もあります。

**質 問**

これらを踏まえて以下の点について市長の考えを伺います。

(1) 防災対策の地域特性について

地域ごと災害の可能性や避難行動が異なるため、対策の優先順位も変わってくることから、地域ごとに考えるべきと思うが、サポートが必要ではないか。

(2) 防災訓練の充実について

北斗市防災ハンドブックという素晴らしい資料が配付されているが、これを活用した防災教育などを行ってはどうか。

また、昨年12月に実施された北海道総合防災訓練について、その成果はどうであったか。

(3) 防災対策の広域連携について

大津波の発生時は、基本的に海岸から離れる方向に避難が求められるが、その場合、避難すべき方向には七飯町があり、一部の市民はそこへ向かうのではないかと。また、駒ヶ岳が噴火した場合は南渡島消防事務組合を構成する1市2町のうち七飯町と鹿部町が大きな影響を受けると考えられるが、我が北斗市も無関係ではないと見られない。大災害は被害も広域化するため、今後ますますの広域連携が重要と考えるがいかがか。

**答(市長)** 防災については、多くの議員からもご意見やご提案をいただくなど、大きな関心事であると実感しています。

また、昨年7月に北海道が最大級の津波浸水想定を公表したことや、昨年11月の豪雨で内水被害が発生したことなどもあり、市民の皆さんにおいても高い関心を持たれていると思っています。

市としても、引き続き、広報や周知に努めてまいります。

(1) 防災対策の地域特性についてですが、地域によって被害の規模や避難行動が違ってくるのは当然のことであり、それぞれの状況に応じて、ハザードマップの活用や地域における防災訓練・研修などを通じ、検討していただきたいと思っています。

市としても、町内会やブロック単位での防災活動に対しては、これまでも積極

的にサポートにあたってきたところです。また、北斗市防災連絡会議の活動も活発となっていることから、現在では、自主防災活動に対するサポート体制も充実してきています。

今後は、より一層、地域における自主防災活動の推進に努めるとともに、地区防災計画の策定についてもフォローしていきたいと考えています。

(2) 防災訓練の充実についてですが、令和2年度に作成した防災ハンドブックは、この1冊で想定されるすべての災害を網羅しており、ブロック単位の説明会や町内会での防災研修などへの活用を想定していました。また、新型コロナウイルス感染症の状況が一定程度落ち着いてきた局面で、地域での活用を行ってまいります。

なお、学校現場での防災教育は充実してきており、その際には、防災ハンドブックを活用し、授業が行われています。

次に、昨年12月に行われた北海道総合防災訓練は、厳冬の地震に伴いブラックアウトが発生した想定で避難所体験をするというもので、避難所運営や避難所開設訓練、感染症対策、低体温症対策、保健衛生対策に関する講義、就寝演習、炊き出し演習などを行っています。

成果としては、市単独ではなかなかできない訓練を体験できたことだと思います。

市職員としては、避難所を開設し、運営していくことが主な役割ですが、今回は避難者の立場として、厳冬期における避難所の実情を体験できたということが貴重な経験となりました。

その他、テント、マット、簡易ベッドなどの備蓄資機材が有効に活用できることを検証できたこと、正しい保温対策、衛生面の充実、食事の重要性などを再認識できたことが挙げられます。

(3) 防災対策の広域連携についてですが、七飯町の区域内に避難する市民も考えられますし、浜分地区では、函館市内に避難場所を設定しているところもあります。

本市の場合、「北海道と道内市町村相互の災害時の応援協定」が締結されており、函館市や七飯町など、近隣の市町とは、顔の見える関係を維持し、引き続き連携関係を保ってまいります。



北斗市総合体育館で行われた北海道総合防災訓練